

令和6年度 福岡市精神保健福祉センター運営協議会 議事録

日 時	令和6年8月22日(木) 15:00~16:00
場 所	あいれふ7階 第2研修室
出席者	福岡大学医学部 教授 堀 輝 九州大学病院精神科神経科 講師 村山 桂太郎 福岡中央公共職業安定所 統括職業指導官 市野澤 武 福岡県精神科病院協会 副会長 大村 重成 福岡市精神保健福祉協議会 理事長 清成 厚美 西区第1障がい者基幹相談支援センター 管理者 西村 隆之 福岡あけぼの会 理事長 判田 章江 こども未来局こども総合相談センター 所長 石井 見栄 福岡市障がい者就労支援センター 所長 堂園 文
	事務局 福岡市精神保健福祉センター所長 同副所長 同相談指導係長 同社会復帰係長 同自殺対策係長 同管理係長
次 第	1 開会 2 審議 (1) 福岡市精神保健福祉センターの事業概要及び令和5年度実績報告 (2) 令和6年度事業計画(重点事業)
配布資料	資料1 福岡市精神保健福祉センター 令和5年度 所報 資料2 令和6年度精神保健福祉センター事業計画(重点事業)

(1) 会長選出

福岡大学医学部教授 堀 輝 委員が会長に選出された。

(2) 福岡市精神保健福祉センターの事業概要及び令和5年度実績報告

○委員

ひきこもりの方にとってオンラインは大切と考えるが、どのようなアプローチでいくのか。オンラインをするからには相手も準備する必要があると考えるが、どのような段取り等を行っているのか。

●事務局

ひきこもり支援の中で、ご本人と面接するよりも家族との面接が多くなっている。はじめからオンラインではなく、来所の面接時に次はオンラインでという形で、LINEなどでやり取りをおこない次のオンライン相談につながっている。

○委員

オンラインはLINEやZOOMで実施しているのか。

●事務局

その方の持っている環境によって対応している。多いのはLINEで、件数としては少なく来所される方が多い。

○会長

オンラインの対応をもう少し広げていくなどの方向性は考えているのか。

●事務局

昨年までは、あいれふに来られての面接であったが、今年度より出張のひきこもり相談会として各区で実施することになった。令和6年7月からの開始で、始まったばかりだが、各区年3回、よかよかルームのスタッフが相談会場に出向いて話を聞くということで予約制にて実施している。現在の予約状況は18件ほど。予約が各区に入り始めた状況である。

高齢のひきこもりの方の家族は高齢化がすすんでおり、中央区にあるあいれふまで来なくても近くで相談できてよかったという声なども聞かれている。

○委員

10ページ地域支援センター事業についてだが、相談実績としてトータルで1,716件と数字が上がっており、ひきこもり支援コーディネーター2名、事務補助1名、合計3名となっている。現在はこの3名で対応しているということによいか。

●事務局

常勤3名のスタッフで対応し、スタッフは6名いる。

○委員

今後増員の予定はあるか。

●事務局

今年度から出張ひきこもり相談会を開催することになり、1名増員している。

○委員

今年度より4名体制ということか。

●事務局

あいれふの中に3名、出張があるときは1名が外に出ていくことになるので、4名体制ということである。

○委員

この人数でこの相談件数の対応が可能なのかどうかと思ったので質問した。

●事務局

かなりハードな状況です。電話相談を受けて次は来所相談を受けることや、同時に出張相談がある場合もあり、少しずつでもスタッフを増やしていきたいと思っている。

○委員

ピアサポーター養成講座に22名、25名が参加しているが、養成講座受講後はどのような活躍の場があるのか、どのように活躍をされているのか教えてほしい。

●事務局

よかよかルームの中でピアサポーター養成講座を実施しているが、ここで参加された方が他の場所で活躍するというところまでは出来ていない状況がある。ただ、よかよかルームのグループ活動には引き続き参加をしてもらい、現サポーターの立場としてのご意見などをいただいている状況である。

○委員

精神保健福祉センターはひきこもり、依存症、自殺対策の3本柱で従来の保健所と役割分担しながら取り組んでいるところだと思う。このごろの課題として感じていることはなにか。

●事務局

ひきこもりについては、やはり40代、50代でひきこもりになり、その後相談に来られている方が非常に多いことに驚いている。不登校をきっかけにひきこもりになるとイメージしていたため、働いた社会経験のある方が就職によって社会経験をしたけれども、そのあとうまくいかずにひきこもりになるということで、初回相談が40代、50代のひきこもり者の方で、その方が相談に来られるまでの期間が1年という短い期間ではなく、5年などの長い期間ひきこもっての相談になっているようである。

やはり8050問題もあるのか、親御さんも非常に問題意識を高く持たれて相談に来られることは多いなと感じている。

○委員

どのように啓発をしたらここにつながるのか、相談に来たらいいと言うメッセージをいろいろな方に届けられたらいいと感じた。

えがお館は20歳未満のお子さんの不登校等をきっかけにした問題を扱っている。不登校

というのは、ここは教育委員会サイドの話になると思うが、コロナを契機に非常に増えたということ、その中にゲーム依存がある。スマホを夜中もやって朝起きられず不登校になるという、子供たちの中で非常に大きく根深いものになっている。その不登校を何とかしたいという親が怒って虐待につながるというような悪循環があるところが問題だと感じている。また、ここ数年、警固界限ではオーバードーズをしている小学生もいるなど、児童相談所でも新しい問題が起こっているので精神保健福祉センターと連携していきたい。

○委員

相談事業の中で依存症に関わる相談が大半を占めるという話であったが、その相談は1回のみ相談なのか、継続が多いのか、また継続の場合はどのような対応をしているのか教えて欲しい。

●事務局

実施している相談事業と言うのは二つあり、ひとつは電話、もうひとつが専門医面談ということになる。センターが依存症の患者、あるいはご家族と伴走して一緒にやっていくということをしている組織ではなく、相談の場合は基本的には専門医の面談につなぐ、ないしは、自助グループや病院、そういったところに紹介するといったような形で、我々が伴走するというよりは伴走していただける組織に橋渡しをするというのが我々の基本的な仕事かなというふうに考えて対応している。

ただ、なかなかそこにも繋がらない場合があるとか、あるいは1度相談をしたけれどもまた相談したいであるとか、繰り返し相談いただくような例は年内にも何回かあるが、基本的にはどこかにつなぐところで終わっていくケースが多いかなと思う。

(3) 令和6年度事業計画について（重点事業）

○委員

精神障害に特化した地域包括ケアシステムは、もう何年も前から話には出ているがどうなっているのか聞かせてほしい。また、小中高校生の中でヤングケアラーという話を民生委員の立場で話を聞く機会があるが、精神障害を持った親を持つ子供が多いという話を聞き、子供たちのことも考えてほしいと思うが。

●事務局

精神障がい者の包括地域包括ケアシステムについて、（所報の）精神障がい者支援体制の構築推進事業で書かせていただいている。先ほどご意見にあったように、精神障がい者の地域包括ケアシステムの検討は、なかなか進んでいない状況と私たちも感じている。

令和5年度の取り組みとしては、主管課である保健予防課と一緒に令和元年度に目標として挙げられた入退院時の切れ目ない支援体制の構築というところと、精神障がい者が安心して地域で生活できるよう、地域住民の理解を進めていくというところを引き続き取り組んでいるような状況。令和6年度は保健所一元化があったが、これまでと同様に各區で精神障がい者の方が住みやすい生活をするにはどうしたらいいかという、区レベルでのネッ

トワーク会議というのも引き続き行い、そこで課題解決や意見交換を踏まえて、市の検討部会を行う予定になっている。

またヤングケアラーの問題について、今おっしゃったように精神障害を持った親御さんのところがそういった傾向があると話していただきましたけど、これは主にこども未来局が現在計画等を作っている。審議会などの中で、こういったヤングケアラーの問題というのが非常に課題という形で挙がっているの、そういったところと協力し計画の中に生かしながら、策を進めていくというような形になると思っている。

○委員

本年度の事業の自殺対策事業の普及啓発、相談窓口の方法という形でいくつか挙げられているが、ぜひ、やるからには効果検証が必要かと思うので、電話相談があったときなど、なぜ、どうやって、この相談窓口を知ったのかということ聞き、より効果のある普及として、今後集中して実施できるように対応していくのがいいのかと思う。

●事務局

今回のSNS広告で若年層の方たちに知ってもらい取り組みを行っている。電話相談は、年配の方、若い方より50代ぐらいの方が多いが、若い方からの相談があったときは、どうやって知ったのかということについて調査を進めたい。

またSNSの場合、スマートフォンでタップすると、市のホームページの相談窓口が記載されているページに行くようになっている。

件数などについても、最終的に具体的な広告事業の中で報告があるので、その点も内容も検証させていただき、効果など図りたい。

○会長

効果を図る方法としては「検索ワード」等、ホームページのどういうワードで、そのページを見たかも抜き出してみたらわかると思う。

○委員

所報についてですが、毎年やっている事業については、前年度のデータがないと増えたのか減ったのかわからないので、それぐらいはわかるようにしてほしい。

●事務局

検討する。

○会長

やはり先ほど例えば手帳とかも増えているとか、いろんな話ありましたが、今日の議案でもあったように、社会の変化やコロナなどで随分いろいろ変わってきている部分もあると思う。さらに重点的かつ効果的に事業を行っていく中で、自殺やひきこもりの話も含め推移は必要と考える。その推移の中に福岡市の特徴も出てくると思うので、そういったところを見ながら、議論を交わらせていけたらよいのでは思う。